

さいがいきょうてい

災害協定

ちいき いちいん

地域の一員として

ちいき やわ

地域を支える

けんせつきぎょう ことじ
建設企業は、工事だけ

でなく、ふだんから地域を支える活動をしてい

たとえば、水防訓練と

いって、河川の洪水などの緊急の対応をする訓練を、地域の役所と合同で、毎年、行っています。

ほかにも、地域の一般の住民に防災のための

こうえんかい おこな

講演会を行ったり、地元

の海岸や道路をきれいに

する活動、福祉施設への

慰問、子どもたちがシャ

ベルカーなどの建設機械

に触れる体験会をひら

たり、地元高校生の授業

にも協力するなど、じつ

にさまざまな活動を行っ

ています。

こうした活動のなかで

も、本業の工事に関係す

るものとして、災害が起

きた時にそなえる「災害

協定」という取り決めを

地域の役所と結んでいま

す。

さいがいきょうてい

災害協定とは

普段、公共工事といわ

れる工事は、入札という

手続きをしてから行って

います。

しかし、大災害では、

いろいろな場所で、同時

に多くの被害が発生しま

す。そんなときに、「役所

に報告して」「を相談し

て」「契約をして」という

ふうに、のんびりしてい

るわけにはいきません。

そこで、地震や台風、大

雨などが起きたとき、地域

を守るためすばやく工事を

することができるよう、

役所と建設企業とで「災害

きょうてい

協定」を結んでいます。

災害協定を結んでおく

ことで、たとえば大きな

地震が起きたときは、

建設企業は、ただちにパ

トロールを行って、緊急

の補修など安全のために

必要な工事を自分の判断

ですることができるよう

になっています。

ちいき まも じもと

地域を守る地元

けんせつ たいせつ

建設企業の大切さ

緊急のパトロールや工

事を担えるような地元の

建設企業がなければ、よ

その土地から呼んで来な

ければならなくなり
ます。
だいさいがい

大災害が起きて、
道路
こわ どうろ

が壊れてしまつたら、
遠
とお

くにどんなに大きな建設
けんせつ

企業があつても、現場に
きぎょう

かけつけることができま
せん。

また、その土地のこと
とち

が良く分かつていないと、
よ わ

どこが危ないか、どこを
あぶ

優先しなければいけない
ゆうせん

かという判断も難しくな
はんだん むずか

ります。

だから、それぞれの地
ち

域に、その地域をよく知
いき ちいき し

つていて、地域の危険に
ちいき きけん

すぐ立ち上がることで
た あ

きる底力をもつた建設
けんせつ
きりぞもつたけんせつ
企業が
きぎょう
いることがとても

大切な
たいせつ
のです。